

授業科目名・形態	ソーシャルワークの基盤と専門職 講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	藤田 博章	実務経験の有無	有	開講期	1年後期

【授業の主題】

本講は、大学4年間におけるソーシャルワーク関連の講義や演習の基礎となる授業である。ソーシャルワークの理念・概念やその形成過程について学び、日本においてソーシャルワーカーとして位置づけられる、社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と意義などについて理解することを目的とする。

【到達目標】

1. ソーシャルワークの目的と働きかけの対象について、いずれかのソーシャルワークの定義を用いて説明できる。
2. ソーシャルワークの形成過程について、形成に寄与した代表的な研究者と理論の内容を関係づけることができる。
3. 社会福祉士と精神保健福祉士の役割と意義について、根拠法・資格の性格・社会的背景から確認できる。
4. ソーシャルワークを担う専門職に必要な基本的な価値観について、日本社会福祉士会の倫理綱領と行動規範から判断できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義：社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法
- 第2回 社会福祉士および精神保健福祉士の専門性、コンピテンシー
- 第3回 ソーシャルワークの定義
- 第4回 ソーシャルワークの構成要素 及び ソーシャルワークの原理
- 第5回 ソーシャルワークの理念①：ソーシャルワークの価値（価値観）
- 第6回 ソーシャルワークの理念②：人権と社会正義
- 第7回 ソーシャルワークの理念③：権利擁護
- 第8回 ソーシャルワークの理念④：自己決定、自立支援
- 第9回 ソーシャルワークの理念⑤：ノーマライゼーションとソーシャル・インクルージョン
- 第10回 ソーシャルワークの源流と基礎確立期
- 第11回 ソーシャルワーク発展期
- 第12回 ソーシャルワーク展開期と統合化、日本におけるソーシャルワークの形成過程
- 第13回 専門職倫理の概念
- 第14回 専門職倫理綱領及び専門職としての行動規範
- 第15回 ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ

【授業実施方法】

基本的には講義と演習で行う。

【授業準備】

1. 受講するすべての学生は各回の授業において参照する教科書の該当ページを「授業前に一度は読んでくること」
2. 余裕のある学生は教科書の該当ページにおけるわからない語句などを「専門書や辞典などを用いて調べておくこと」
3. 社会福祉専門職になろうとする高い意欲のある学生は、日頃から新聞などで報じられる社会福祉に関する問題に関心を持ち、「社会問題とソーシャルワーク専門職との関係について確認すること」

【主な関連する科目】

社会福祉概論Ⅰ・Ⅱ、高齢者福祉論、人間の理解Ⅰ・Ⅱ、障害児・者福祉、ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）、ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ～Ⅳ、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ など

【教科書等】

最新 社会福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）、中央法規出版

【参考文献】

必要に応じて、授業の中で適宜提示する。

【成績評価方法】

授業・演習への参加態度（主体的な授業参加態度を重視する）10%、提出課題・レポート 30%、定期試験 60%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

社会福祉士・精神保健福祉士として障害者就労支援施設、地域包括支援センター、不登校・ひきこもり家族会での支援の実践の経験から、ソーシャルワークの原理や理念を基礎から理解できる授業の展開を行う。

【学生へのメッセージ】

ソーシャルワークの価値・知識・技術は、ソーシャルワークの目的を達成するためにあります。ソーシャルワークの目的とは何か。常にこの問いを立て、答えようとする意欲を持って授業に臨んでください。社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格取得を目指す学生は、積極的な知識の獲得を目指してください。